

第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画（以下、「第4期計画」）

個別事業調書（ ）

事業名 (取り組み)			担当課	
第4期計画の 位置づけ	1	基本目標	ひとつの事業が複数の施策に関連する場合も、1枚のシートにまとめて記入してください。	
		基本方針		
	2	施策		
		基本目標		
		基本方針		
		施策		
現状と課題				
具体的な 実施内容				
① 事業が目指す 地域の未来像	単年ではなく、第4期計画期間(令和5～9年度)の取り組みを通した5年後のビジョンを記入してください。			

※資料がある場合は添付ください。

※以下は、事業実施後に記入します。

② 事業実施結果	定量的なもの	数量的な実績を記入してください。数量で表せないものは、「定性的なもの」欄に文章で記入してください。 (例) ・住民向け講座を●回開催し、●人の参加があった。 ・▲▲制度の広報活動を行い、利用者が●%増加した。 ※「定性的なもの」のみの場合は、この欄を削除し、全て「定性的なもの」欄にしても差し支えありません。
	定性的なもの	数量では表せない取り組みや経過、工夫などを記入してください。 (例) ・広報紙やHP、公式LINEなど多様な媒体を用いて制度の周知に取り組んだ。 ・感染症対策のため規模は縮小したが、インターネット配信を行い、より多くの住民に見ていただけた。 ・外国人住民に向けて、制度チラシの多言語化を行った。
③ 今後の課題、展望	今年度の取り組みを振り返り、「事業が目指す地域の未来像」を実現するために今後どのような取り組みが必要か、またどのような課題があるかを記入してください。	
④ 目標の達成度	目標の達成度は、今年度末時点で、「事業が目指す地域の未来像」を何割達成できているか、担当課の評価を選択してください。(1～10の選択式)	

2023年度

個別事業調書の変更点

①「事業の目的、目指す効果」を「事業が目指す地域の未来像」に変更

調書の作成対象事業（作成課）によっては、福祉の観点から行われるものばかりではないため、これまでは事業自体の結果を記載されるケースが見られました。

「地域の未来像」を問うことにより事業が地域や住民へ与える影響について言及され、「地域福祉の推進」という観点に結びつくことを狙いとしています。

②事業実施結果の記載欄を「定量的なもの」「定性的なもの」に分割

数量的な評価が困難な事業もあること、また事業が実施できた／できなかっただけでなくプロセスも評価の対象としたいことから、評価の観点を細分化して明示しました。

③「担当課による事業の評価」を「今後の課題、展望」に変更

担当者の感想や事業自体の評価ではなく、地域福祉の観点からどのような課題や展望が考えられるのかを引き出すため、質問方法を見直しました。

これに伴い、「今後の展望（継続、内容見直し、終了、その他）」のチェックボックスを削除しました。

④「目標の達成度」を新設

10段階の数値評価を新たな項目として設けました。

事業の結果や成果を採点する目的ではなく、5年間の計画期間において、現時点で「事業が目指す地域の未来像」の実現に対しどの程度の進捗状況であるのか、事業担当課による自己評価を行うこととします。

登山をイメージしており、「事業が目指す地域の未来像」を頂上とした場合に、今年度は何合目に到達できたかという問いかけ方をすることで、評価の感覚をつかんでいたと考え、10段階評価としています。